

Title	のみ先端塾：まちの「お世話役」を100人つくろう ！ - 能美市お世話役育成プロジェクト -
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ2, 24
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8215
Rights	
Description	

今後の展望

人材育成グループでは、能美市の「ありたい姿」を、「夢のある住みよいまち」としています。地域のあちこちにお世話役がいて、市民の思いをつなぎ、ネットワークをつないでいくような地域です。この「ありたい姿」に向けて、次のような目標を掲げています。

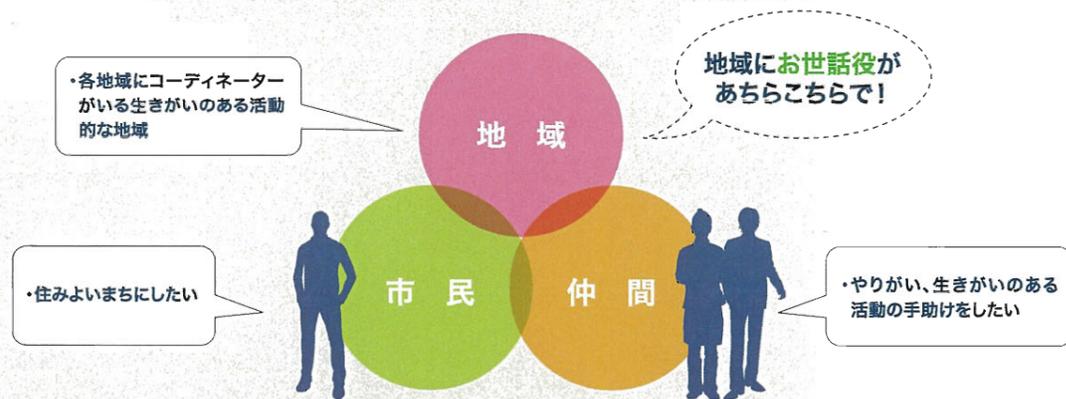
- 1年以内にNPOを立ち上げる
- 1年以内のみ先端塾を開講する
- 5年以内に各地域に1～2人のコーディネーターがいる地域にする

またこの目標を達成するために、下記のような日々の実践を掲げています。

人材育成から始まる協働型のまちづくり、JAISTはこれからも応援していきます。

- 毎日、能美市の文化や社会の情報を収集し学ぶ。
- 毎月、市民活動への支援プログラムの積極的展開をおこなう。
- 毎月、地域で頑張っている人を特集する。
- 毎年、地域協働のためのルール作りおよび見直しをおこなう。
- 5年毎に、結果を振り返り、再度目標の選定をおこなう。

能美市の「ありたい姿」～夢のある住みよいまちに～



地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベータ養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟II7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: dento-secr@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム
の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 2

のみ先端塾

まちの「お世話役」を100人つくろう!
— 能美市お世話役育成プロジェクト —



JAISTで開講された平成20年度「地域再生システム論」講座では、平成19年度に引き続き「人材育成グループ」が結成され、能美市において「協働コーディネーターを100人育てる」というテーマに取り組みました。この「協働コーディネーター」、計画案では「お世話役」とも呼ばれています。大きなお世話という言葉もありますが、これからのまちづくりには、大きなお世話も小さなお世話も必要なのです。本誌では能美市ではどのようにして100人のお世話役を育てようとしているのかを紹介いたします。

■ 能美市が抱える課題

能 美市は平成 17 年 2 月 1 日に根上町、寺井町、辰口町の 3 町が合併して誕生した自治体です。特徴としては、石川県を代表する伝統工芸九谷焼を地場産業に持っていること、県内有数の先端産業が集積していること、北陸先端科学技術大学院大学があるということが挙げられます。また地元出身の有名人として、ヤンキースの松井秀喜選手がいます。能美市にはこれらに関連する施設やイベントなど、観光資源も充実しています。

能美市の平成 19 年度 10 月現在の人口は、4 万 8,891 人。これは前年比で 316 人プラスになっています。能美市は人口も世帯数も増えている成長過程の都市であるといえます。

位置・地勢

- ・石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、県都金沢から南西に 20 km
- ・東に霊峰白山を仰ぎ、西に日本海、南に能美丘陵、手取川に囲まれた扇状地。



地 域活動の現状としては、市内の各地域で 74 自治会があり、公民館を拠点とする生涯学習活動、NPO、各種団体によるまちづくり活動が非常に盛んです。能美市のボランティアセンターには平成 20 年 4 月現在 78 グループの登録があり、個人会員のボランティア 784 名を含め 2,923 名がボランティア活動を

■ 市民活動の声

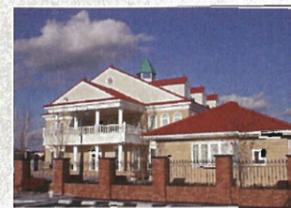
- ・地域の連帯感が薄れ、地域力の不足が感じられる
- ・各地域がそれぞれバラバラに活動している
- ・他地域や行政と協働する方法が分からない
- ・人材や財源が不足している
- ・行政と市民の交流の場が無い
- ・市民と行政の認識の違い
- ・団塊世代の大量退職

■ 地域の声

- ・ひとり暮らしの高齢者への配慮が必要ではないか
- ・老人パワーによる地域おこしが必要
- ・少子高齢化に伴い空き家が増加している
- ・中山間地の荒廃、山林の維持管理の問題に取り組むべき
- ・農業や伝統産業の後継者の確保・育成が難しい
- ・農業用排水路等の公共施設が老朽化している
- ・町会としての防災計画や自主防災組織が必要



九谷茶碗祭り



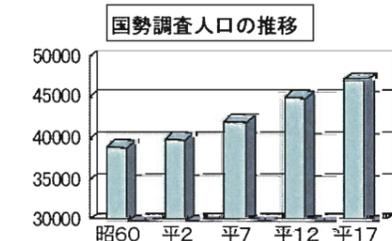
松井秀喜ベースボールミュージアム



北陸先端科学技術大学院大学

面積・人口

- ・面積：83.85km²、主な地目は、山林 43%、農地 20%、宅地 12%
- ・人口 (平成 20 年 10 月 1 日現在)
人口：49,185 人世帯 16,318 (前年比+294 人)
世帯数：16,260 世帯 (前年比+351 世帯)



を進めています。これは能美市の人口の約 5%に当たる数で、今後も増加するものと見込まれています。

そんな能美市で一昨年、市民団体や個人を対象にアンケート調査を実施したところ、以下のような課題が見えてきました。

NOMI SENTANJUKU

昔前は、行政は公共と呼ばれるモノ・コトをすべてカバーしていました。ですから役所に任せておけばいい、ということだったのです。しかし時代の変化とともに現在は、行政が担える部分は公共の中の一部だけという状況になっており、さまざまなところでまちづくりに対する不安、不満が表れています。だからこそ今、市民と行政の協働のまちづくりが必要なのです。

「協働型まちづくり」について、能美市内の市民団体、町会、町内会、企業・事業者、能美市各課などを対象

にアンケート調査を行ったところ、「協働の進め方やルールが分からない」「橋渡し役、コーディネーターがいない」「町会、町内会の人材が乏しい」「まちづくりへの評価システムなどが必要だ」というような課題が抽出され、人材が不足しているとの現状が明らかになりました。

この人材、すなわち協働コーディネーターの役割を果たす「お世話役」を地域に 100 人つくろうというのが、人材育成グループが作成した地域再生計画の要となっています。

■ お世話役を 100 人つくる「のみ先端塾」

人 材育成グループでは「のみ先端塾」を、お世話役を育てるための塾と位置づけています。

講義を通して基礎知識を、体験学習を通して応用能力も身につけてもらい、ポジティブ思考・使命感・地域への愛着・発想の柔軟性・協働力・行動力・意見調整能力・コミュニケーション能力(コーディネートスキル)・企画・立案(想定力)など、協働型のまちづくりに必要とされる能力を開発する、というのが塾のねらいです。

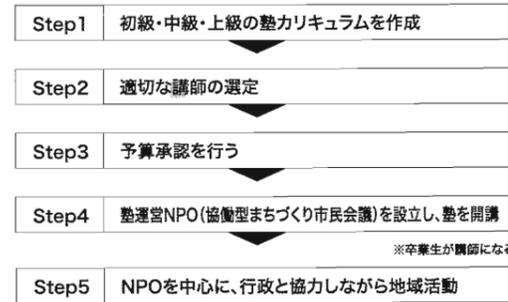
のみ先端塾は平成 21 年度に能美市で予算化されました。塾の運営にあたるのは NPO と想定していますので、まず 20 名程度の実行委員会を設立して「地域作り NPO」を立ち上げ、事業費を NPO に委託し、NPO がカリキュラムを組んで事業を展開していきます。人材育成グループでは以下のような計画で開講準備をしています。

受 講生は能美市内 74 地区から募集し、モチベーションを高めてもらうために受講料を徴収します。

カリキュラムは、初級・中級・上級と 3 つに分けて設定しています。初級では、さまざまなスキルと基礎知識を習得します。先進地の視察も行い、後半はワークショップの企画、運営も行います。中級では基礎能力ができた上で、課題の設定力、解決力それから協働プランの作成やシミュレーションまでできるようになることを目指します。上級は実践です。地域におけるプロデューサー的な役割や、NPO を立てる場合にはマネジメントもしっかり勉強し、アクションプランを策定し、起業プランまで作成します。講師は JAIST の教授陣のほか、外部講師も招きます。

塾を卒業した市民は、お世話役として、地域の協働

開講に向けてのステップ



Step 1 : 3 コース(初級・中級・上級)を設立し、協働コーディネータを育成

初級:協働を理解・体験する
中級:協働プランを作成・試行する
上級:協働をマネジメントする

初級を詳細に決定

コーディネーター事業を行います。計画では 1 件につき 1 万円程度のコーディネート料を想定しています。また JAIST の学生を対象に、地域作りのインターンシップの授業の実施することも考えています。お世話役には、経済的インセンティブ、社会的インセンティブ、道徳的インセンティブ、また市長表彰を付与するという案も出ています。

平成 21 年度は活動中の団体リーダー、団塊世代、市役所職員を対象に、まず初級コースからスタートします。期間は 1 年間で、年間 7 回の講義開催を予定しています。

人材育成グループでは、数年後には各地区に 1~2 名、市全体で 100 名のお世話役が活躍する未来を描いています。のみ先端塾にご期待ください。